

A Happy New Year 2020! 新年特別企画

対談 ピーター・バラカン×武田砂鉄

「復興五輪」という四文字自体があり得ないはずです。」

「騙すために作った言葉としか思えない。」

2020年のNO NUKES PRESSは、3.11福島原発事故前からNO NUKESを訴えるピーター・バラカンさんと、気鋭のライター武田砂鉄さんの対談で幕開けです。いまの社会の問題やムードなど、おふたりに語っていただきました。



福島原発事故と東京五輪

武田 東日本大震災が発生した時、自分はまだライターとして独立する前で、国立競技場の近くにある出版社に勤めていました。国立競技場の隣にある明治公園に避難したんですが、そこに公園の向かい側にある都営霞ヶ丘アパートに住んでいる人たちが避難してきた。1964年の東京オリンピックを契機に建設された歴史の長い都営アパートです。

明治公園も霞ヶ丘アパートもなくなり、国立競技場の他に大きなビルが建っています。そのビルの中にJOC(日本オリンピック委員会)が入っています。かつての風景を知っている人間からすると、ブラックジョークのような街作りです。そういう個人的な体験というか記憶もあって、「復興五輪」という言葉が平然と飛び出でることが許せない。

「復興の姿を聖火リレーで見せます」と言うけど、福島第一原発の横を走るわけでもない。原発事故から8年が経ち、軽々しく「復興五輪」が連呼されることは対して、怒りを表明するエネルギーが世の中に足りていない。

バラカン そうね、もう既成事実になってしまって、もどかしいですよね。2013年に安倍がブエノスアイレスに出向いてIOCで、「原発事故はアン

ダーコントロール」とプレゼンをしましたが、2019年10月になっても、いまだに「アンダーコントロール」になっていないからね。国民がよくこれを許しとと思いますよ。

武田 汚染水の行き先も決まらない、台風では廃棄物を入れた袋「フレコンバッグ」が河川に流出した。本来ならば、そのたびに「アンダーコントロール」という発言を繰り返し精査しなければいけない。しかし、今回のオリンピックは大手新聞4社、読売、朝日、毎日、日経がオフィシャルパートナーになっています。そのあたりの追求が弱くなってしまう。

バラカン う~ん、これもまたあり得ない話ですよね。東京で開催が決まった時点から、メディアはずっと騒ぎっぱなしですからね。メディアが騒いでいる、国民もその気になってしまいます。反対すると「おまえ水をかけるな」と思われるでしょうね。

武田 オリンピックが行われるたびに反対運動は起きますが、今回のオリンピックは、東日本大震災、そして福島原発事故をどう捉えるか、ということが大きなポイントになります。先ほども言いましたが、「復興五輪」という四文字自体があり得ないはずです。「復興」と「五輪」のふたつを使った文章が成り立つとしたら、復興のために五輪をやめる、しかありません。

バラカン まやかしですよね。要するに、説得材料にするためにスピーチライターが、騙すために作った言葉としか思えない。

武田 たとえば「アベノミクス」というネーミングなども、本来は、失笑しながら受け止めなければいけないものですね。自分の名前を掲げた経済政策を自分でプレゼンしているという。

バラカン あれはだって「レーガノミクス」のパクリですけどね。「クールジャパン」も「クールブリタニア」のマネをしているし。そういうモノマネはちょっとやめてほしいな。自分の言葉を考えなさいよ、と言いたくなる。

偉い人と偉くない人

武田 日本のテレビを見ていると、とにかく権力批判をしない。先日、あるテレビ番組を見ていたら、「菅官房長官もこの番組を見ているんですよ」なんて周りの人人が言う。すると、司会者が「ありがとうございます」と言って起立して礼をしたんです。愕然としました。

バラカン でもね、テレビだけじゃなくて、一般の人たちも政治家のことを「先生」と呼んだりして、それも気持ち悪くて。ときどき政治家が、自分は



Walk and Talk it

死者は語ることができないため、確認のしようがない——『雨ニモマケズ』宮沢賢治の不本意

『雨ニモマケズ』は宮沢賢治の「作品」ではない。賢治の没後に発見された手帳に書かれたメモであり、生前発表された作品とは異なり公開を意図されたものではない。詩人の中村稔は『雨ニモマケズ』を「ふと書き落とした過失のように思われる」(『宮沢賢治・筑摩書房』)と評しており、自分を励ますためのメモだった可能性が高いこの「詩」を、「賢治といえば『雨ニモマケズ』とされるのは鬼籍に入った賢治にとって不本意であるのが想像されるが、死者は語ることができないため、確認のしようがない。

関西電力役員らの金品受領問題を巡り、野瀬高浜町長が故森山元助役に関し、多大な力を持つようになった

は「特異なキャラクターのせい」と述べた。稻田氏や世耕氏と森山氏との関係が報道された今、森山氏の特異な喉喝体质によって金品受領が起きた、とされるのは政権にとって好都合であろうが、中島哲氏は「関電の方が絶大な便宜を得ている。関電が森山さんをしゃぶり尽くした」とも述べた。フィクサーとして、金を独り占めせず周りに配り責められないようにする、資金の発生源である関電にバック、還流されていた、というのがこのケースの根深さなのだが、森山氏の本当の意図、立場がどうだったかは、死者は語ることができないため、確認のしようがない。(TH)

公僕だということを口先だけ言うけど、振る舞いはまったくそうなっていないからね。イギリスらしさのひとつに偉そうなことを言わないと何も変わらない、ということは自分も含めてそうなんですかね。それが変わらなければ、自分がますます苦労することになるということだと思うな。

武田 財務省では昨年から、公文書改ざん、あるいは事務次官のセクハラ問題などが相次いでいます。大臣は麻生太郎さんですが、彼は記者に対して、乱暴な口調をきくことが多い。「ああ、〇〇新聞か」というように。記者はそれに文句も言わず従っているわけですが、本来は彼の部下でもないのだから「その口の聞き方は何ですか?」と言ってもいいはず。でも、麻生さんに引っ付いている記者だから、文句を言わないわけです。



バラカン それでも、日本は世界の中で比較的暮らしやすいところだと思っているんですよ。ロンドンは暮らしやすいけど、EU離脱が本当に実現したら、しばらくはカオスになるはずですから。アメリカも、有害物質が空気中にいっぱい舞っているような印象しかないしね。ヨーロッパも右翼政治家ばかり増えている、そういうことを考えると日本はまだマシなほうなのかな。

武田 少し前に、ラジオで映画評論家の町山智浩さんと話した時に、どこの国がいい・悪いというよりも、権力者同士が形だけ仲よくなっているのが現在だ、と言いました。つまり、トランプと金正恩は仲がいいことになっている。金正恩とブッシュも一応コミュニケーションが取れて仲がいい。自国優先主義の独裁者同士で肩を組んでいる状況があるわけですね。

そうすると何が起きるかというと、上下の差が生まれる。国ごとのいい・悪いではなくて、どの国でも、偉い人と偉くないとの差が広がっていく。今の日本社会を見ていると、それがものすごく顕著になってきている。

バラカン だからこそ、いまポピュリズムがこれだけ持ち上がっているとも言えるわけですね。

当事者意識と問題意識

バラカン 工藤勇一さんという中学校長が書かれた本『麹町中学校の型破り校長 非常識な教え』に、当事者意識のことや、人に依存してしまう子供のことなどが書いてあります。親がなんでも手をかけてやると、子供の自立を奪ってしまう。親からのサービスをずっと受けていると、そのうちにそのサービスに対して批判するようになる。

親のサービスがよくないから、先生の教え方が悪いから、自分が勉強できないんだと、人の悪口を言うようになる。メディア、テレビを見ている人たちも同じように主体性を奪われていて、自主的に情報を取ろうとしないで、受け身になっているように思います。テレビというのももともと、見ている方が受け身になる媒体なんだと思います。

武田 知り合いの大学教授などに聞くと、だいたいみんな同じようなことで悩んでいます。学生に対して意見を求めるとき、自分の意見がいかにマスクどうかを過度に気にする、と。みんなと違う意見になるのを恐れるそうです。

バラカン なるほど。工藤さんは、みんなが違っていて当たり前だと中学生に教えているんです。

武田 そういう発想を学校だけじゃなくて、記事を書く人間であったり、どんなメディアの人間も持っていないといけないはずです。



バラカン いまの日本の社会では、当事者意識が一番欠けているものなんだろうなと、ときどき思いますね。自分たちが立ち上がって何かをしない何も変わらない、ということは自分も含めてそうなんですかね。それが変わらなければ、自分がますます苦労することになるということだと思うな。

武田 このあいだ、梶谷懐・高口康太の『幸福な監視国家・中国』というタイトルの本を読んだんですが、中国のSNSって、ネガティブな言葉を書いたら即座に検閲される、というイメージだった。確かにそれはそうなんだけど、習近平体制になってから、同時に、ポジティブな言葉を流通させ、社会を肯定的に捉える「正能量(ポジティブ・エネルギー)」で溢れさせようとしているなんです。

この感じ、今の日本と似ているような気がするんですね。つまり、批判を消すよりも、礼賛する言葉や積極的な言葉ばかりを投じることで、ワーウーうるさく言っている人たちの意見を目立たなくさせてくる。ミュージシャンのインタビューなどを読んでいても、そういうことしか言わない人が多いですね。「どうやったら世の中ハッピーになるかを考えています」ということしか言わない。

世の中をハッピーにしたいなら、アンハッピーなところを見つけてそれを改善しないと、ハッピーにならないと思うんです。でも、とりあえず「ハッピーになりたいです」と言うだけ言う。その波はこれからどんどん高くなってくる気がするんです。だから、個人的には、もうイヤなやつで居続けようかなと思ってますけどね。



バラカン そうね、別にイヤなやつでいたいというわけではないけどね。

武田 普通のことを言っているとイヤなやつになると。

バラカン 当事者意識と問題意識をしっかりと持つ、それだけのことだと思います。ただ、それを1人で持っててもしょうがないから、誰かにそれを伝えたいたい。

武田 そうですね。ほんとうに、どうしたら気づいてくれる人が増えるのかなと、いつも思いますね。

バラカン せっかくメディアで仕事しているからね。その立場をうまく利用するというのか、なんて言つたらいいんだろうね。何もしないというのは、あまりにも情けない話だからね。

(2019年10月1日 東京都千代田区にて)
撮影:宮坂恵津子



対談全文はこちらでご覧いただけます

<http://coalitionagainstnukes.jp/?p=13358>



RECORD THE POWER OF THE PEOPLE!

2014年3月8日(土)

NO NUKES マガジン vol.04 エネルギーシフト編 配布開始

首都圏反原発連合では、首相官邸前などの抗議行動やデモの両輪として、「紙のデモ」をイメージし、リーフレットの発行にも取り組んできました。2014年3月には、『NO NUKES マガジン vol.4 エネルギーシフト編 [NO NUKES ENERGY AUTONOMY]』をリリース、50,000部を配布しました。

6年前の年末年始は、金曜官邸前抗議をはじめ、このリーフレットの準備や、3月に開催する『NO NUKES DAY』、そして反原連が事務局を務める「安倍政権NO!★実行委員会』の準備など、多忙な時期でした。その後、2014年4月に安倍政権がエネルギー基本計画を改悪し、日本は原発推進に舵を切ってしまいました。

編集後記

謹賀新年!2020年の幕開けです(個人的には旧暦を支持)。3.11から丸9年を迎えようとしていますが、福島原発事故を正しく省みるならば、日本のエネルギー政策はとっくに脱原発に舵を切っているはず。森友など様々な疑惑から逃げ切った、原発推進の安倍政権。今度こそ「桜の散る回」とならないものか。

38年ぶりに来日したローマ教皇が、日本のエネルギー政策に言及、異議を唱えた。約13億の信者だけではなく、多くの人々の胸に響いたに違いない。今井尚哉秘書官が官邸で主導する原発推進政策は、どこまで世界の潮流に逆らえるか。2020年こそ、ガチで勝負をつけたいところだ。

